

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

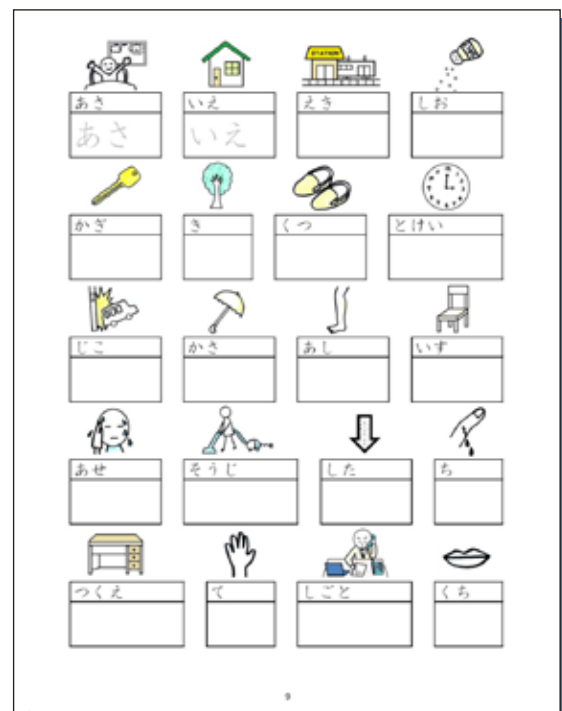
2017年 秋号 (季刊) 第145号

ひらがな練習帳をリニューアルしました。

～日本語を学習する方たちにより楽しくひらがなを勉強してもらうために～

以前から日本語学習者に人気のあった、FICECオリジナル「ひらがな練習帳」に変更を加えて新しく作りなおしました。日頃、日本語を教える中から生まれて来た「もっとわかりやすく」「より興味を持ってもらえるように」という思いから、何度も協議を重ね内容の濃い1冊になっています。

中でも、復習として単語を書く練習のページを作り、ひらがなの練習と同時に単語を覚えるページを多く取り入れたのが今回の特徴です。生活に必要な初級レベルの単語を選択し、どんな言語の人にもわかるようにイラストも付けました。一人でも学習可能ですが、日本語のわかる人に手伝ってもらって一緒に勉強しても、より理解が深まると思います。お求めはFICECまでお問い合わせください。



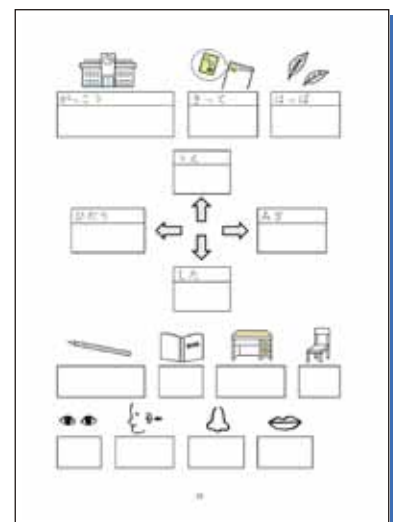
単語でひらがな練習



50音図



あ行練習



促音練習と復習

FICEC日本語教室を数字で見る8年間、そこから課題を考える

日本語教室 岩田 仁

学習者に薦めたい日本語勉強法

- ①単語を無理に覚えない。会話の中、耳で覚えよう ②会話が通じるか通じないかに焦点を置こう
 ③日本語文法に最初からは挑戦しない。こだわり過ぎると進捗面で差が出てくる。
 ④会話は”瞬発力”。思ったことを声に出してみよう。根気よく話しかけよう。
- 1)日本語を簡単に表現しよう 2)言葉が出て来ない時は、別の言葉で言い換えよう 3)知っている単語で話そう



●国別学習者数ベスト10

1位	中国	115名
2位	フィリピン	93名
3位	韓国	22名
4位	ネパール	13名
5位	コンゴ	8名
6位	アメリカ	7名
6位	パキスタン	7名
8位	タイ	6名
8位	ベトナム	6名
10位	イギリス	5名
10位	ブラジル	5名

●過去3年間学習者の住所ベスト10

1位	ふじみ野市	74名
2位	川越市	23名
3位	富士見市	14名
4位	三芳町	7名
5位	朝霞市	4名
6位	東京	3名
7位	鶴ヶ島市	2名
7位	さいたま市	2名
7位	和光市	2名
7位	志木市	2名

●過去8年間学習者参加回数分析

1回	143名 (全体の40%)		
2回	46名		
3回	37名		
合計	226名 (全体の63%)		
4回	24名	5回	16名
6回	15名	7回	14名
8回	8名	9回	8名
合計	311名 (全体の86.2%)		
10回～18回	29名		
20回～29回	13名		
31回～83回	各1名		
121回	1名		

●学習者の母国調べ 合計 46カ国 341名

アメリカ、アルゼンチン、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、オーストラリア、ガーナ、カメルーン、カンボジア、韓国、ギニア、キルギス、コロンビア、コンゴ、スペイン、スリランカ、タイ、台湾、中国、チュニジア、チリ、ドイツ、ナイジェリア、ネパール、パキスタン、バングラディッシュ、フィジー、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ペナン、ペルー、ポーランド、ボリビア、香港、ミャンマー、モロッコ、モンゴル、ラトビア、ロシア、日本



●年度別生徒数&開校数調べ

年度	生徒数	開校数	1回当り
平成21年	324名	44回	7.4名
平成22年 うれし野会館に移動	221名	45回	4.9名
平成23年	192名	39回	3.9名
平成24年	213名	48回	4.4名
平成25年	228名	49回	4.7名
平成26年 上福岡に移動	288名	48回	6.0名
平成27年	305名	51回	6.0名
平成28年	282名	47回	6.0名

●数字から見る教室の課題

課題1)8回未満の学習者が全体の8割に達する点について、従来の勉強法で良いか

課題2)学習者の定着率を高めるための考えが必要ではないか

課題3)年間生徒数に大きな変化がない点についての検討は必要ないか

課題4)学習者の住所に関して、富士見市の学習者が川越市より少ない点をどう考えるか。今後「東上線沿線日本語教室連絡会」への参加も視野に入れるべきか

課題5)日本語教室の遠近については、一時の影響はあるものの次第に元に戻っていることをどう考えるか

課題6)受講時間の長い学習者への新しい施策として、日本語教室指導者助手的な位置づけをし、本人及び新学習者への理解率を高めていくシステムの構築

学習者の国別総数と異なるのは、同一人が年度をまたがって、あるいは継続して受けているため

「インフォメーションふじみの」スペイン語翻訳者ダリオ・カステリャーノさん

Hola amigos,

Mi nombre es Dario Castellanos. Soy el traductor de español de Información Fujimino de FICEC. Mi esposa y yo llegamos a Japón en julio de 1991 y vivimos ahí hasta abril del 2003. Cuando llegamos a Japón no sabíamos hablar japonés por lo que fue muy difícil comunicarnos. Empezamos a estudiar japonés por nosotros mismos en la casa pero fue a paso lento. Nuestros dos hijos, Dario Jr. y David Ken nacieron en Japón. Cuando mi esposa los tuvo, la paso mal porque no se podía comunicar con el personal del hospital. Observando lo que los japoneses hacían y siguiendo las reglas de como vivir en Japón que algunos amigos japoneses habían mencionado, comenzamos a vivir en un país desconocido para nosotros. Mas tarde, yo empecé a tomar clases de japonés en el centro de la comunidad del entonces Oi Machi, donde mi maestra, quien es ahora una de nuestras mejores amigas nos dijo acerca de FICEC. En FICEC fuimos felices y nos divertimos mucho. FICEC nos dijo acerca de las reglas y de la manera de vivir en Japón. Esto, hizo nuestra vida mas facil y tranquila ya que no tuvimos que preocuparnos mas de que si estábamos haciendo bien o mal porque ahora ya sabemos todas las reglas y las seguimos. FICEC nos aconsejó y ayudó con problemas que teníamos y con cosas que teníamos que hacer. También, FICEC nos enseñó japonés el cual nos sirvió mucho para comunicarnos. Además, nos dio la oportunidad de hacer muchos amigos japoneses y de otras nacionalidades y de conocer sobre la cultura japonesa y de otros países. El increíble trabajo que FICEC hace para ayudar a los extranjeros es muy valioso para nosotros, y estoy seguro que también para la gente japonesa. Mi familia y yo desde el fondo de nuestros

私の名前はダリオ・カステリャーノです。私はFICECの情報誌「インフォメーションふじみの」の、スペイン語翻訳者です。私と妻は、1991年7月に日本に来て、2003年4月まで滞在しました。私たちが日本に来たとき、まったく日本語を話すことができなかったため、会話ができませんでした。私たちは家の中で、自分たちで日本語の勉強を始めましたが、とてもゆっくりなペースでした。二人の息子は日本で生まれました。妻は子どもが生まれたときは、病院の中で日本語が話せなかったため、大変な思いをしました。私たちにとっては未知の国である日本で、日本人がどう暮らしているかを見て、何人かの日本人の友達に、日本で生活する上でのルールを教えてくださいながら、生活を始めました。その後私は、大井中央公民館で日本語の勉強を始めました。ここで教えてくれていた先生は今では私たちの親友であり、FICECを紹介してくれました。FICECでは、私たちはとても楽しく、幸せに過ごしました。私たちはFICECで、日本での規則や生活の仕方を教えてくださいました。おかげで日本での生活が過ごしやすくなりました。そして日本で何か間違ったことをしていないかを心配することもな

corazones, queremos decir: "GRACIAS FICEC por todo lo que haces." GRACIAS FICEC por ayudar a nosotros los extranjeros en todos los aspectos haciendo nuestras vidas mas fáciles y felices, por enseñarnos japonés, por darnos conocimiento, entretenimiento y diversión, por decirnos las reglas y la manera de vivir en Japón, y con todo esto al mismo tiempo, gracias por ayudar, porque si todos seguimos las reglas, Japón seguirá siendo el maravilloso país que es hoy.



※ダリオさんは現在アメリカに住んでいます。毎月メールを通して翻訳していただいています。



く、様々な規則も分かるようになりました。何か問題があったときには、FICECに相談してどうすればよいかを教えてくださいました。またFICECでは日本語を教えてくださいましたので、会話ができるようになりました。そしてFICECではたくさんの日本人や、他の国々からの友人を作る機会がありました。また、日本や他の国々の文化を知る機会もありました。私たちは、FICECで外国人を援助してもらって、とてもありがたいと思いました。それは日本の方々にとっても同様に素晴らしいことだと確信しています。妻と私は心から、FICECの方々に「FICEC、ありがとうございます」と申し上げたいです。私たち外国人をすべての面で援助していただき、生活が楽に、幸せになれるよう、助けていただけること、そして日本語を教えてください、知識や、娯楽や、楽しいイベントを知らせてください、日本で生活するための規則を教えてください。そして同時に、すべての人々が規則を守って暮らせるように援助してもらえることで、今日の日本が素晴らしい国であり続けられることに、ありがとうございますと、FICECに申し上げます。

(和訳 茂木久美子)



スタッフ紹介

これからも共に、「多文化が未来を拓く」活動に加えられて

ふじみの国際交流センター監事 大島博幸

ふじみの国際交流センター(FICEC)との関わりは、20年余になります。1997年4月に三芳町に引っ越して、何気なく藤久保公民館を訪ねた時、「ふじみの国際交流センター発足」のチラシを目にしたのが最初の出会いでした。日本語教師である私は、地域の外国籍の方々の支援という理念に触れ、FICECの活動に加えていただき、最近では監事の働きを担うようになりました。

さて皆さんは、「監事」と聞くとどのような印象を持たれるでしょうか。「会計のことをあれこれと細かく調べる…」、「支出や活動に関して何かと意見を言う…」を思い浮かべることでしょう。確かにそうした一面はありますが、それだけではありません。

FICECは、埼玉県指定・認定特定非営利活動法人です。その活動が、埼玉県や地域から信頼され、こうしたタイトルにより活動しています。その信頼・信用によって、行政や企業からの補助金や支援金、また個人の会費が集められて、託された活動を行い、また当初の目的に基づいた活動をすすめています。監事による監査は、こうして集められたお金の支出とそれに基づく活動が適正に行われているかを担

保するのが第一の目的です。さらにFICECの様々な活動が、目的や理念に基づいて効率よく働けるように、会計手順を標準化したり、組織の運営状況を確認したりして、ミスが起りにくい仕組みを作るよう提言し、会計に携わる方々、活動や運営に携わる方々の負担を軽減するのが第二の目的です。

ですから監査は、会計監査と業務監査を行います。その際、誤りの指摘だけでなく、なぜ誤りが起こったのか、どうすれば防げ、また改善できるかということまで進みます。そうでないと真の効果は得られないからです。そのために会計や活動実態を各担当者から聞き、必要に応じて組織手順の改善のアドバイスもします。監査は、監査を受ける側がプラスになること、さらに組織全体の益につながることを心がけます。もちろん、適正に運営・運用されている場合はその限りではありません。

FICECも20周年を超え、これまでの皆さんの真摯な活動が、地域に、行政に、そして何よりも在日外国籍の方々に信頼され、期待されています。「多文化が未来を拓く」この言葉に裏打ちされ、促されて、これからもFICECの活動に共に加えられ、進んでいきたいと願います。



「ハングルと創作者^{セ ジョン}世宗大王」 ユウ ザヒ

韓国にはハングルと言う文字があります。この文字は世界の言語学者たちから世界で一番優秀で論理的な文字だと言われ、1997年にはユネスコ世界記録遺産に指定されました。

ハングルは14個の子音と10個の母音を組み合わせて音を表記する表音文字です。その表記出来る数は約8,800個だそうです。例えば、日本語の「あ、い、う、え、お」を韓国語で表記するとㅇという子音にト, 丨, 丁, 卍, ㄱの母音を付けて아, 이, 우, 에, 오になります。

言語学者たちがハングルに注目した理由は子音と母音24個さえ覚えればどの発音も表記出来るという所、更にいつ、だれが、何のために作ったのかわかる唯一の文字だからです。世界には数多い文字があります。その成り立ちは正確にはわからなく自然の流れで生まれて変化を持ちながら現在に至ったと見られています。ハングルの場合は朝鮮時代の世宗大王^{セ ジョン}によって国民の為に1443年に作

られ、1446年に発表されます。それまで、独自の文字が無く漢字を用いて表記されていましたが、象形文字の漢字で韓国語を表現するのでは文章として伝わらないなど混乱がありました。

なかなか勉強する機会がない庶民たちには漢字の意味を理解するのも難しく、書物で知識を得たくても得ることが出来ませんでした。それを不憫に思った世宗大王は「少しでも国民の生活を豊かにするためには、だれでも分かりやすい文字を創ることだ。」と思い、全国の学者たちを集めて研究に研究を重ねて人の口の形や舌の位置、喉の開き具合まで記号化して作り出したのがハングルです。

韓国人の私にとっては、世界の学者さんたちに「学文的に世界で、一番優れた文字だ。」と言われているハングルも自慢ですが、このハングルと言う文字が誕生した背景にある世宗大王^{セ ジョン}の全ての民を愛する気持ちこそが自分の国の自慢であり、誇りです。

この方もFICECの活動を応援してくださっています

丘 亜蘭 さん

FICECを応援してくださっている方のお一人に丘 亜蘭(きゅう あらん)さんがいらっしゃいます。

広州の名高い藩家にお生まれになり、経済評論家で直木賞作家の邱 永漢さんとご結婚され、藩 苑蘭(はん えんらん)さんの名で料理研究家として有名な方です。

FICECがテレビで取り上げられたのを機に、寄付をいただくようになりました。秘書の方のお話によ

ると「日本人が在留外国人を支援してくれるのが嬉しい」とおっしゃって下さるそうです。直接お目にかかったことはないのですが、丘 亜蘭さんがそのように思っていることを、とても光栄に感じています。

持続可能なFICECの活動ができるように、これからもより多くの方々にご理解いただきたいと願っています。

FICECの活動

- ①義務教育の対象になっていない外国籍の子どもが、学校の授業に参加し、健全な生活を送り、日本で就職できる大人になれるように日本語指導と学習指導を行っています
- ②役所や学校からの手紙が読め、日本語で自分の気持ちを伝えられるように日本語指導をしています
- ③様々な家庭の問題や、表面的には見えにくい地域や職場での行き違いを未然に防ぐための、生活相談と就労支援をしています

- ④外国人トラブルが起きないように、日本のきまりや習慣を知ってもらうための7カ国語で情報を提供しています
- ⑤DV被害に遭った母子を保護し、再出発するための支援をしています
- ⑥パソコン教室や国際交流サロンの開催など、外国人と日本人が交流できる機会をたくさん設けています

これからもご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ

石井ナナエ

○月○日

70歳になった。脊柱管狭窄症に悩まされながら、それでも手術をする勇気が無く、痛み止めの薬に頼って生活している。家の中では、まっすぐ立っているのが辛くて壁やいすにつかまって家事をしている始末。でも朝9時を過ぎると何が何でもFICECに行きたくて、娘達が買ってくれた電動自転車で出かける。2、3分走り出すと不思議と痛みが和らぎ、5分もするとスラスラ漕げるようになる。

途中、足を引きずって歩いている人に会うと『実は私も足腰が痛いんです。でもこんな風に自転車漕げるようになりました。頑張ってくださいね』と心の中で声をかけて通り過ぎていく。

母から「まず人様」と育てられ「在留外国人に何かできないかしら」と考えて始めたFICECの活動が、今は生きがいであり張り合いであり痛みさえ忘れさせてくれる。1日中しびれている足腰をさすりながら、『このままずっとFICECに通いたいな』と、無理な望みを抱いている。

○月○日

最近たて続けに、日本で育った外国人青年と日本国籍の女性の婚姻未届けの相談が入ってきた。どちらも同棲中に妊娠し、一方の人は長男が小学生になるほど。ところが未だに入籍しておらず、子どもは私生児のままになっていて、ゴチャゴチャと次々に問題が起きている。

よく話を聞いてみると、最初の子の妊娠に気がついた時に市役所に結婚の手続きに出かけたのだが、「外国人との結婚は難しいから大使館に行ってください」と言われたらしい。書類を揃えるのにワサワサしている内に時間が過ぎてしまい、子どもだけが次々に生まれたようだ。

あの時、二人がもう少し真剣に手続きの事を考えていたら。あの時、市役所の職員がもう少し親切にサポートしてくれていたら。その時FICECに相談に来てくれたら、こんなにまでにならなかったのではないかと思う。これを縁に腰を据えて、複雑に絡みあった問題を解いていく手助けをしようと思っている。

今まで支えてくれた人が居るから今の私がいる

中田 ^{かえん} 佳妍さん

今から13年前、私が10歳だった時中国から日本に来た。当時の私は日本の文化も知らず、日本語も全く話せない状態で家から区域内的の鶴が丘小学校に転校した。初めて登校した日の事は今でも覚えている。家で練習していた「こんにちは、私はダイカエンです。宜しくお願いします。」を心の中で何度も唱えながら学校に向かった。私は友達に恵まれ、日本語を全く話せないのにもかかわらずクラスメートのみんなが外国人である私に興味を持って接してくれて、放課後はいつも一緒に遊ぼうと誘ってくれた。もっと日本語を自由に話せたらもっとみんなと仲良くなれると思い、日本語の勉強に励んだ。そんな時、母が連れって言ってくれたのが国際交流センター(現:FICEC)だった。当時は週末に交流センターに行き、日本語の勉強をしたり、実際にキャンプや花見などを通して日本の文化について体験したり、週に二回戸塚先生が私の小学校に来て日本語を教えてくれた。また、日本語が不自由だった時は国語の授業にもついていけず、日々授業で理解できなかったところを貯めて戸塚先生に教えてもらった。そんな周りの支えやサポートのおかげで日本に来て半年から1年経った頃には、日常会話はほとんど問題なく出来るようになった。

その後、中学、高校、専門学校へと進み、私は普通の日本の子どもと同じような道を経て社会人になった。学生の時は英語を習得するために海外の短期留学も経験した。語学力を生かすため、最初の就職はアメリカの企業を選んだ。



職場がハワイだったのでハワイに住みながら仕事に励んだ。仕事の内容は通訳兼ツアーガイドだった。仕事は主に中国人と日本人の観光客を案内したり、トラブルが起きた時、アメリカ人ス



タッフとお客様の間に入り通訳したりすることだった。日本語も中国語も両方できるからこそハワイで働くチャンスを得られ、普通の人を経験しがたい仕事を経験することが出来た。今は結婚を機に生活基盤を日本に移し、接客業の仕事についている。今後は日本と中国の架橋になれるように、もっと人生の経験を積んで、たくさん学び、日中ビジネスを通して国際社会に貢献できる仕事をしたいと考えている。

もしあの時、国際交流センターに出会わなかったら、きっと日本語の勉強もすごく時間がかかり、今の私のように流暢に話せていなかったかもしれない。幼い頃から日本人の先生に丁寧に日本語を教えてもらったおかげで、私の日本語はイントネーションも訛りはなく、自己紹介で苗字を言わない限り外国人だと誰にも気づかれないレベルだ。今は日本人と結婚し苗字も旦那の姓に変えたので、もはや初対面の方はみんな生粋の日本人だと思われるくらい仕事も日常生活も母国語のように日本語を話せる。それも全部国際交流センター、石井さん、戸塚先生のおかげだ。本当に今も心から感謝している。





ベトナム料理教室開催

7月20日(木)上福岡西公民館でベトナム料理教室を行いました。

講師はベトナム人の女性で、参加者は17名でした。

野菜をたっぷり使ったベトナム風サラダと、揚げ春巻きを作りました。

とてもおいしかったです。



かみふくおか七夕まつり

8月5日(土)、8月6日(日)に、ふじみ野市で行われた「かみふくおか七夕まつり」にFICECは輪投げで参加しました。小籠包とタンドリーチキンのお店も出しました。



コロッケの寄付をいただきました。

埼玉労福協よりたくさんのコロッケの寄付をいただきました。日本語教室の学習者とスタッフでお昼にごちそうになりました。いつもありがとうございます。

遠くから来る人にもわかりやすく

FICECを訪ねて来る人の中に、事務所が見つからないという人がたくさんいます。そこで万国旗を飾ることにしました。小雨の降る中、会員の左官屋さんがダイナミックに万国旗を張ってくれました。これなら迷子になる人は出ないでしょう。皆様も見に来てください。



たぐいまイベントの準備中

10月7日(土)に開催される『アートフェスタふじみ野2017~こころに橋を架けよう~』のフィリピンの踊りを練習中です。子どもの遊びにフィリピンの「ジャックストーン」と韓国の「チェギチャギ」とを用意しています。お楽しみに。

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

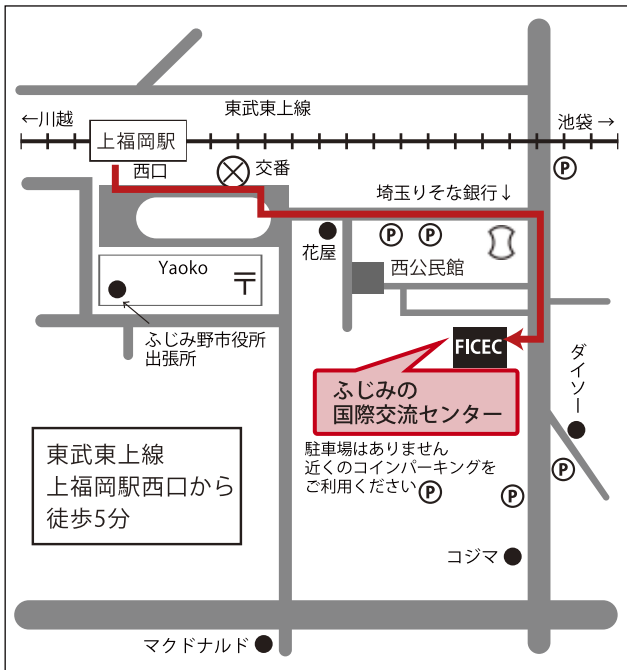
郵便振替口座: 00110-0-369511
 口座名: ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
 センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291
 生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々
 ご支援ありがとうございます

●2016年4月1日～2017年9月30日(順不同・敬称略)

佐藤光江、樟山直美、加藤久美子、立麻肇子、安部幸枝、金澤国勝、佐藤義治、戸塚成子、駒形一夫、神田順子、邱垂蘭、吉永、鈴木譲二、尾浦邦彦、新井良司、栗嶋三千代、村山光代、金田康好、木村不二雄、マストラ、ニーランティ、市川波穂、阿澄康子、小林暁美、湯澤直美、市川まなみ、松下敏恵、深見水季夫、本多香、竹内直江、田中つや子、中山明子、上島直美、矢澤美紀、寺村璧如、新井順子、森田信子、木村澄江、松村芳枝、石塚雄康、木場ひろみ、安銀柱、江科、太田原裕、岩田愛子、伊藤真弓、李李銘、坪田幹男、小熊一雄、粕谷光宏、中村禎作、野澤弘子、市川いずみ、金子佐記子、島田道子、新井洋子、佐藤裕悦、八重樫紀久枝、大室昭浩、仲野谷美恵、星野秋梅、小林久美、鄭玄淑、石井ナナエ、岩田仁、長谷川正江、小熊千寿子、穴沢エミリン、山畑博子、荒田光男、山崎友理、東入間地区遊技業防犯協力会、かめのり財団、一食推進委員会、朝日子どもの貧困助成事業、(株)吉岡

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター		
サービス案内		
外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。